

団体名・グループ名

山口大学教育学部附属山口小学校 3年1組総合学習ホタルンジャー

〈審査委員の評価のポイント〉

第3学年1組の総合的学習の取り組みとして、ホタルの多産地で「川をきれいにしよう」と子供達が立ち上がり、良い指導者を得て、最後に「水とわたしたちのくらしのつながりを考えよう」というスローガンに至るまでの経過を高く評価された。いすず川に看板を設置する際に川の水質について調べたことも評価された。

主な活動は以下のとおり。

- ・いすず川の環境調査。
- ・いすず川の清掃、看板とゴミ箱の設置。
- ・校内のホタルを守る活動。
- ・校内のホタルが生息するみぞの観察と環境の調査。

活動の場所 山口市 ^{いすず} 五十鈴川	活動したこどもの人数 35名
附属山口小学校内(校舎裏側溝)	活動したこどもの学年 3年生

活動継続年数 3年	主な受賞歴 平成23年度こどもホタルンジャー活動レポート募集 優秀賞 平成24年度こどもホタルンジャー活動レポート募集 奨励賞
--------------	--

活動グループ(学校・団体)の紹介、活動頻度

本校は、山口市の中心市街地に位置し、山口県庁から程近い場所にある。子どもたちは、今年度、学校のすぐそばを流れている五十鈴川にすんでいる生き物を観察する中で、川の至る所にゴミが落ちていることに気づき、河川環境をよりよくしていくことで生き物がすみやすい環境をつくろうと考えた。そこで、『いすず川をもっときれいな川にしよう!』を合言葉に、総合的な学習の時間の学習として河川環境を保全する取り組みを行った。授業として取り組んだ35時間の他にも、昼休みや休日などを使って自発的に観察や掃除を行っているところである。

活動の概要(活動の経緯も含めてご記入ください)

社会科の学習で学校周辺の町の様子について調べた際、通りかかった五十鈴川にゴミがたくさん落ちていることに子どもたちが気付いた。普段、ほとんど意識することのなかった五十鈴川がどのような川なのか調べてみたいという願いを子どもたちがもったことから、今年度は、五十鈴川の自然環境について調べ考えていく学習を、総合的な学習の時間に行うことにした。調べてみると、数え切れないほどのサワガニがすんでいることが分かった。さらに、川岸や土手でゲンジボタルを発見することができた。また、川の中だけではなく土手にもたくさんのゴミが落ちていることが分かり、川の水質をよりよくしていくことで五十鈴川をきれいな川にして、そこにすむゲンジボタルをはじめ多くの生き物にとってすみやすい環境をつくってほしいという強い願いをもつに至った。子どもたちは、上流から下流にかけて清掃活動を繰り返し行ったほか、環境保全を呼びかける看板やゴミ箱を設置しようと関係機関や地元自治会、土地所有者に直接要請する活動を行った。現在は、五十鈴川の水質保全活動を続けるとともに、校内のゲンジボタルがすみやすい溝の様子について観察を続けているところである。

◆この応募用紙は、活動をした子どもたちの保護者や先生等、大人の方が記入してください。

団体名・グループ名

3年1組総合学習ホタルンジャー

活動の場所(様子や環境など)

いすず川(上流と下流)、学校内 (校しゃうのみぞ
はば34cm・深さ20cm)

タイトル

いすず川をもっときれいな川にしよう! ~ホタルでいっぱい町をめざして

活動を始めたきっかけ(興味を持ったことなど)

社会見学で山口県ちやや五重のとうにいった時にいすず川を通りかかった。川を見てみるとビニールぶくろやあきかんなどがあつた。まわりの道路にパンの油がついたビニールぶくろがすててあつた。自分たちは学校のまわりのかんきょうは良いと思つていたけど、あまり良くなかつたから活動力をためようと思つた。それにおとしからホタルンジャーをやつていたから自分たちもやりたいと思ひ、この活動力をためた。



活動の目標(やってみたくと思つたことなど)

- ・いすず川をきれいにし、ゲンジボタルなどの生き物がすみやすいかんきょうにする。
- ・さいごにゲンジボタルが多くとびたてくれるようにする。
- ・いすず川をきれいにし、学校のみぞにゲンジボタルがいっぱい来てもらえるようにする。
- ・いすず川をきれいにし、生き物をふやしていく。
- ・山口市をホタルいっぱい町にする。



◆この活動レポート用紙は、活動をした子どもたちが中心に記入してください。

活動の内容や調べたこと、写真やイラスト(自由記入ノート)

活動の内容や調べたこと

1. いすず川のかんきょう調査

。見た目はきれいだが、中に入ると川岸の草にあわがうかんではいた。
 おくにすすんで行くと、川の水がきたなくて、魚がひくつかえ。うかんではいた。

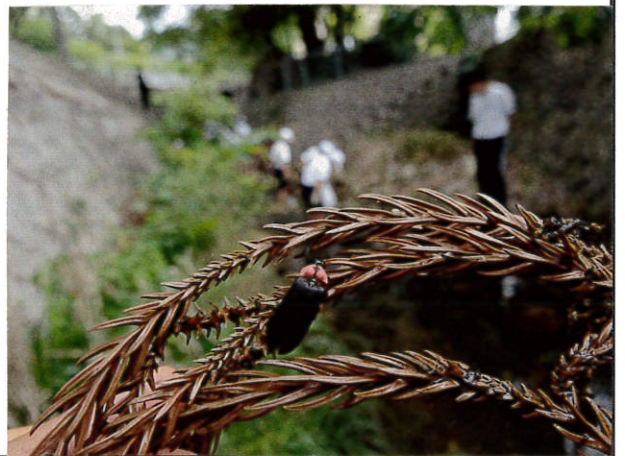
。いすず川にいた生き物はサワガニ・カワニナ・ハヤ・カワムツ・ヤゴ・カエルなどがいた。
 よくかんさつしてみると、川岸や土手にゲンジボタルがいた。
 大きなカメもいた。

。サワガニが50mぐらいの間に何百匹もいた。
 むらさき色のサワガニもいた。
 サワガニは、大きい物や小さい物もいた。

。いすず川には、たくさん土手があり、ゲンジボタルのよう
 虫が上りくできる場所
 があった。川の中にもカワ
 ニナがたくさんいたので、こ
 の川は、ゲンジボタルがす
 みやすいことが分かった。



いすず川で「見つけたゲンジボタル(上)と川の中にいたドンコ(下)」



◆この活動レポート用紙は、活動をした子どもたちが中心に記入してください。

活動の内容や調べたこと、写真やイラスト(自由記入ノート)

2. いすず川のせいそう活動

まず、生き物がたくさんすんでいる上流のそうじを行なった。川の中には、とうきのかげらや、ビン、空きカンなどがあつた。川のまわりにもタバコのすいがらやバベキューで使うあみ、ビニールふくろや鉄くずなどがたくさん落ちていた。みんなで力を合 わせて何時間もかけて拾ってみると、全部でーリン車6台分のゴミが集まつた。そのゴミを見て、どうしてこんなにゴミがあるのに、たれも拾わなかつたのかと思つた。

次に、土手をそうじすることにした。

土手をよく見てみると、土にうまつている空きカンを見つけた。ほり出してみると、何と、やく14年前にすてられたゴミであることが分かつた。ほかにも12年前のペットボトルも見つけた。みんなでそうじをしたけれど、1つのゴミも見当たらなかつた。

ところが、いすず川の下流も調べてみると、川のそばに、たくさん空きカンが落ちていた場所があつた。そこで、いすず川の下流のそうじをすることを決め、そうじを行なった。とくに川のそばに落ちていた空きカンを拾うために、みんなでアイデアを出し合ひ、じしゃくを使って、とくべつなつりざおを作り、空きカンを拾つた。2時間かけて、ゴミが1つもなくなるようにした。

さらにいすず川からの水が流れこんでいる錦川にゴミが落ちていないかどうかを調べた。だが、錦川には、土手がなかつたため、ゲンジボタルがすむのはむずかしいと思つた。



◆この活動レポート用紙は、活動をした子どもたちが中心に記入してください。

活動の内容や調べたこと、写真やイラスト(自由記入ノート)

3. いすず川にかん板とゴミ箱をせちする活動

◦ 何度も川のそうじをしてきたが、ごみはなかなかへらな
 かった。そこで、どうすればいすず川のごみを
 なくすことができるかみんなで話し合った。その
 ほか、川をきれいにするようによびかけるかん板
 と、ごみを回収するゴミ箱を作ることに決めた。

◦ 調べてみると、勝手に川のまわりにかん板な
 どをせちしてはいけない事が分か
 った。そこで、川を管理してい
 る山口県防府土木けんち
 く事務所 山口支所に、き
 をもらうために、おねがい
 に行くことにした。

◦ かん板には「いすず川を山
 口一の川にしよう」「川をきれ
 いにしています。川にごみを
 捨てないようご協力ください
 などの言葉を書いた。また、ご
 箱は雨や風にも強いようにく
 ふうして作った。そして、防府土
 木けんちく事務所の人たちに、
 せちをきかせてもらえるように
 せつ明会を開いた。どんなしつ
 にも答えられるようにじゅんびして



◆この活動レポート用紙は、活動をした子どもたちが中心に記入してください。

活動の内容や調べたこと、写真やイラスト(自由記入ノート)

たおかげで、事む所の人たちとせちをまかしてくれた。また、自ち会長さんや土地を持っている山口大神宮の宮司さんにも力をあねがいし、いすず川のそばに「かん板」と「ごみ箱」をせちすることかできた。(かん板は3ヵ月間、ごみ箱は1ヵ月間)

- 。せちした後、ごみ箱にごみが入っていないか、また川にごみがすてられていないかなどを見に行った。ごみ箱には、ペットボトルやスチールかん、アルミかんが入っていた。そのかんの中には、きたない物もあった。それはきつと、通りかかった人たちが、このかん板を見て拾ってくれた物だと思った。

4. 附ぞく小学校のゲンジボタルを守る活動

- 。2年前に先はいたちが見つけたゲンジボタルは、1はんで60ひきぐらいとんだが、去年の3年1組の活動の時に、山の水がかれたため、今年の夏にとんだのは、2〜3ひきだった。



- 。今年は、みぞの水がべかいていないかどうかやカワニナが元気かどうかを見守った。やはり、カワニナはたくさんいたが、みぞの水は何度もかかれてしまった。みぞの回りのそうじも、みんなで行った。

みぞの水やカワニナをみんなで見守る



みぞの回りのそうじ

- 。みんなて「きれいにしたいいすず川」のゲンジボタルが学校のみぞまでとんで来てほしいといから、思った。

活動で工夫したこと、困ったこと

工夫したこと

・いすず川に、かんばんとごみ箱をせちするきょかを
もらうために、ほうふ土木けんちく事む所の人たちや
じち会長さん、山口大ネ申ぐうのぐうじさんにかんばんとご
み箱の ひっようせいをせつ明した。

・川そこに落ちていたスチールかんを拾う
ためにじしゃくがついているつりざおを
考え出した。



困ったこと

・どうしたら私たちの学校のみぞに山の
水が流れつづけるよつになるのか。
・川のごみをへらすことはできたけど、なくす
ことはできなかった。

活動で気づいたこと、感じたことやおもしろかったこと

気づき

・私たちがいすず川に初めて行った時にごみがあたり 魚が死ん
だりしていた。はじめ私たちは、この川を見てきれいな川だと
思っていたけど、入ってみるとごみがたくさんあることに気づいた。

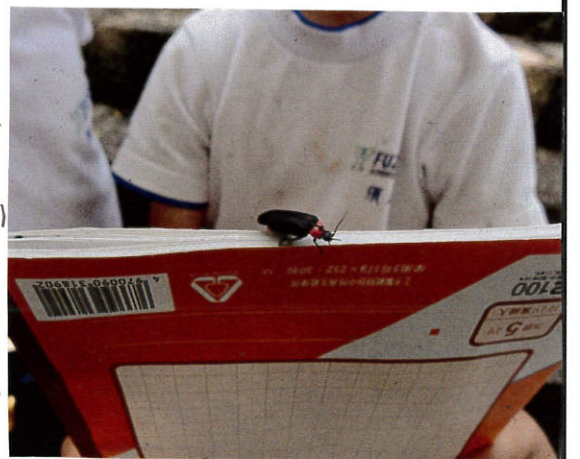
感じたこと

・みんなで力を合わせて川をきれいにすると、魚やホタルたちがよろ
こんでいるよつに感じた。実さいに魚たちの数もふえていた。
・いすず川の上流をきれいにすると下流もきれいになったよつに
感じた。上流のごみは下流にどんどん流されていくことが分かった。

おもしろかったこと

・サワガニがたくさんいてよく見ると
むらさき色のカニがいたり、大きなカニが
いたりした。岩の近くを見ると、豆つぶぐらい
の小さなカニもいた。

・いすず川のそばの葉の上にとまっていたゲ
ンジボタルがとんできて、ノートの上でたま
ごを生んだこと。



活動からわかった課題、自分たち「こどもホタルレンジャー」にできること

課題 川をきれいにするために、手作りのゴミ箱をせちしたが、ゴミ箱をおくだけでは川は、きれいにならないことがわかった。かん板を立ててもゴミはかん全になくならないことがわかった。山からくる水も、何度もかかれてしまい、ホタルがすみその水を取りもどすこともむずかしい。

自分たちにできる事 休みの日や昼休みに川を見に行き、ゴミが落ちていたら拾ったり、川にいる生き物のしゅいりや数のへん化を調べたりする。川にゴミをすてないように近所の人や通りすがりの人に、ゴミをすてないように、おねがいをする。いづく小のみぞの水がかかれてしまうのは、地球温だん化に関係している事が分かったから、だれもいないへ屋はこまめに電気を消したり、水のむだづかいをしないように心がけたりする。



大人の人と一緒に、改善していきたいこと

- 五十鈴川にかん板とゴミ箱をせちしたがゴミはかん全になくならなかった。でも、ゴミはげんしょうしているからもっとげんしょうさせていくために大人の人におねがいしていきたい。
- ホタルのせい虫のき本のせいそくじょうけんはひい空間があり、風当たりが強くなくて、人エしょう明がなく、休そく場所がある所に集まるから、き本じょうけんをそろえたかんきょう作りを大人の人とやっていく。
- 大人の人にも自ぜんを守る心をもってもらい、川にゴミをすてないように心がけるようにしてもらいたい。
- 五十鈴川以外の川のそういもして、山口市全体にホタルがすみやすいかんきょうを広げていきたい。



◆この活動レポート用紙は、活動をした子どもたちが中心に記入してください。

「地域の水環境調べ・テーマ活動」(テーマを選択して記入※ぜひ、いずれかのテーマ活動に取り組んでみて下さい。)

水とわたしたちのくらしのつながりを考えよう

テーマ活動の内容・結果

- ・わたしたちは、本当に水を大切にしているのか?~水を大切にすることを考える。



〈けっか〉

- ・水を大切に使うと、地きゅうのため、そして生き物のためにすみよいかんきょうを作ることができる。
- ・むだづかいをすると、むだになる水がふえてしまう。
- ・水をきれいにし、そうじをすると、わたしたちの学校のホタルもふえてくる。ホタルのすみやすいかんきょう作りにもつながる。

テーマ活動からわかったこと・考えたこと

- ・どんな生き物でも、かならず水がなければ生きていけないことが分かった。そのためにわたしたちができることは、水を大切に使うことだ。たとえば、牛乳ビンをあらう時は、水をこまめに止めたり、うがいや顔をあらう時には、せんめんきにためた水を使うことなどだ。



- ・これらを大人の人やちいさのかたにもつたえ、実行してもらいたいと思う。
- ・ホタルもわたしたちもすがすがしい気持ちになるような、きれいな水とかんきょう作りをこれからも続けていきたいと心から強く思った。